

総務、産業、建設常任委員会記録

招 集 年 月 日	平成30年6月19日（火）
招 集 の 場 所	議員控室
開 会	午後9時26分
出 席 者	委員長 鈴木 宏通 副委員長 山岸 三男 委員 吉田 眞悦 委員 吉田 二郎 委員 佐野 善弘 委員 櫻井 功紀 委員 千葉 一男 議長 大橋 昭太郎
欠 席 者	
職務のため出席した者の職氏名	議会事務局主事 高橋秀彰
協 議 事 項	・定住化促進について （行政視察の件）
そ の 他	
閉 会	午前10時51分

2号様式 協議の経過

鈴木宏通委員長	それでは定刻前ですが、第9回総務、産業、建設常任委員会を始めたいと思います。 皆様御存じのとおり、昨日大阪で大変な地震による災害が起きました。丸一日になりましたが、なかなかこれは、巨大都市型災害、そして40年前になりますが、宮城県沖地震でおきました、ブロック塀による幼い小学生の命が亡くなったという残念なニュースを考えます。それにつきましても、本当に災害につきましては私たちも日ごろより新たな気持ちで。大震災以後もかなり長年という月日がたちますけども、その中で新たないろいろな災害があるということ、そして、地震に関わらずいろいろな災害、また、雨による水害等もごございます。来週の話になりますが、消防によります遠田二町による水防訓練等もごございますので、皆様の参加をしていただきまして防災に関する認識を新たにしていける機会と考えます。 本日常任委員会におきましては、定住化促進につきましての行政視察につきまして行われます各2町への質問項目等の取りまとめに本日進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いを申し上げます。 それでは本日委員全員出席でございますので、委員会は成立いたします。まずもって行政視察に関わる事務局から何か報告等はございますか。
高橋秀彰主事	先日お渡しした行程表（案）のところなのですが、回帰センターの見学、初日に10時16分以降に、東京駅に到着した以降に昼食までの期間中に回帰センターを見学するという行程を入れさせてもらっておりましたが、まちづくり推進課のほうでいろいろ取り次ぎをいただきまして10時半から11時半までの間1時間程度、2人の職員が宮城県の場合ですと配置されているそうなのですが、そのうち1人の職員が空くだろうからということで説明をいただけることになりました。見学と書かせてもらってありますが、説明等も兼ねた見学という形になりますので、10時半から11時半までの期間中ふるさと回帰センターのほうでお世話になることになります。 そのほか、宿に関しては事前にお渡ししたこの摘要欄に書かれている宿を今確保しております。初日に関しては禁煙の部屋を1部屋、喫煙可能な部屋を1部屋という形でとっておりますが、2日目の部屋が全室禁煙という形で、喫煙される方はロビーで申し付けていただきましてロビーのほうで吸っていただく形になりますので、その点をあらかじめ御承知いただきたいと思います。あと初日と2日の宿泊先ですが、駅まで迎えに来ていただけるということで話を進めておりますので、初日と2日に関しては、迎えはありという形になります。ただ、送りに関しては宿泊先の都合がつかないということで現時点ではタクシーを想定しているところではありますが、今後仮に視察先のほうで送迎ということももしかしたらあるかもしれないので、現時点ではタクシーを想定している

	ということで御認識いただきたいと思います。 連絡事項は以上になります。
鈴木宏通委員長	ただいま、研修につきまして説明、補足的になりましたけども。何か質問等ありますか。ありませんか。 それでは本日の課題につきまして進めてまいりたいと思います。本日まず福井県若狭町、そして滋賀県白川町、2町を視察先に選びまして前回の常任委員会のときに皆様に資料としていろいろお渡ししましたが、この2町の研修先についてそれぞれどのようなことを研修で質問項目としていくかということを本日の話し合いの内容として進めてまいりたいと思います。 皆様にはまず前回よりこの資料をお配りしましたけれども、その中のいろいろ質問項目、私たちでこの前からまずここを選んだ理由からもありますけれども、まず両方の部分で例えば情報発信をどのようにしているか、そしてうちの町では行っていない部分の地域おこし協力隊、またはインターン、または定住体験等の取り組みなども双方の町でしている部分でございすけども。 まず若狭町のほうから始めたいと思います。第1日目に福井県若狭町に行くわけですがけれども、その町はまず海の部分と山の部分と双方ある、第一次産業の盛んな地域という御案内があります。それで皆さんのお手元にある資料の中には農業関係の組織を通じての取り組みをしているというところの資料等がお配りされております。この中で交流人口を増やすということを主に取り組みまれて、関西にありながら東京のほうを向いているような町でございまして、東京から例えばこちらに定住促進の旨をもっていろいろな研修、情報収集ですか、そういったことを町で助成しているような。東京から来るのに1万3,000円だったかな。補助をしていたり。あと関西で行っている、関西というか大阪方面からも行っていますが、そういう交流人口の増加に向けての取り組み、そして特に今若狭は若い方々の定住化促進に特に取り組んでいるような町でございまして、それに向けて質問項目等をそろえたいなと思っていますが。
山岸三男副委員長	委員長、気づいたのをちょっとね。
鈴木宏通委員長	はい、副委員長。
山岸三男副委員長	資料をいただいた中で私もちょっと見させてもらったんですけども、若狭町の定住促進の取り組み事例ですと23年から25年ってなっているんだけど、25年以降の26年、27年、28年、29年まで、去年まで、まだデータが出ているかわからないけども、その25年以降の若狭町の取り組みの事例というのは出てこないの。
高橋秀彰主事	現時点で資料を見つけられていないというところではありますが、インターネットで検索してここから先があるかもしれないですし、ちょっとまだそこが見つけれないという状況です。
山岸三男副委員長	この資料は25年時点でのということでの資料になっているから、そ

	れからもう今 30 年だし、四、五年たっているわけだからその後継続して取り組んでいるのかどうかもその資料があるかなと思ったんだけど、なければあっちに行って聞くしかないと思っているんで。それだけちょっと確認したかった。
鈴木宏通委員長	私たちもその資料に関してはもう少しそろえないとね。今、副委員長が申したとおり私たちも資料収集はもう少し努力したいと思います。 ホームページのその取り組みはこれは町村会の先進的事例ということで皆さんにお配りしている部分もあります。事務局より詳細データということでホームページのデータ等もいろんな町の取り組み等の部分もありますし、これはやっていなかったけか。これも古いんだけど、こいつも一緒にある。若狭町と東京をつなぐ～交流人口増加と定住促進へ～っていう資料はありますか。（「もらってますよ」の声あり）やった。あるよね。これもちょっと古いんだけどね。
山岸三男副委員長	取り組みが早かったんだよね。平成 18 年度からやっているから。
鈴木宏通委員長	ふるさと回帰支援センターなども早々に取り組んでいますし。 はい、佐野委員。
佐野善弘委員	町次世代定住促進協議会というのが町とハローワークと企業と学校関係者とでつくっているんですね。その成果が出ているということなんですけどね。次世代の定住促進ということでいろいろやっているその辺の内容を、聞けたらいいのかなと思ってはいるんですけどね。
鈴木宏通委員長	次世代への定住促進の取り組みについて、その協議会の部分を……
佐野善弘委員	11 年から協議会を発足してやっているということで。
鈴木宏通委員長	今佐野委員より次世代の定住促進ということで協議会についていろいろ聞いたらどうかということで、これも 1 つの取り組みにつきまして……。ふるさと回帰支援センターもありますし、こういう部分は早々につくっているんで。よろしいですか。（「はい」の声あり） では、そのほかいろいろ……。
山岸三男副委員長	次世代定住促進協議会の内容を聞くっていうこと、佐野さん。
佐野善弘委員	内容っていうか、町だけではなくてハローワークとか企業とか学校とか巻き込んで若狭町に定住を促進してもらおうっていうことで、学校だと若い人の関係もあるからその辺の内容を少しお聞きしたらいいんでないかとは思っていますけどね。
鈴木宏通委員長	はい、吉田委員。
吉田二郎委員	今、佐野委員が言ってくれたみたく、立ち上げがね、要するに私は一般的には行政の組織でこういったものに取り組むとかいうのは一般的なんでしょうけども、協議会を発足させてこういうふうになんかいろいろな機関に呼びかけて動いたっていう経緯が……。最初からこういうふうにもって行って、あるいは……がこういう協議会が民間の力を当然借りるんだけどもこういう方向に行ったほうがいいんだよっていうことで協議会を発足させたんだか。あるいは農家の協議会みたいなのを、コ

	コミュニティとかね、そういう組織を利用してきたんだかね。そのあたりを委員さんというか役員さんの雰囲気とかをね……。
鈴木宏通委員長	資料をたぶん前回渡したような。一応見せている。もちろんそのときにその内容、取り決めとかね、いろいろ決めてもよろしいかと思うんですが。前回その部分の……、福井の若狭に来てみてけろっていうのね。白川のほうだっけ。（「白川でない」の声あり）定住促進協議会の経緯、または費用としてどれくらいかかっているか。そういうのもいろいろお聞きしたいと。今この「若狭にいっぺん来ておくれなァ」という白黒の、助成額が関東方面から1万3,000円、さっき言った関西、中京方面から8,000円というのは見に行ったりするだけでお金をいただけるようになっているんだねたしか。若狭は。そして、移住サポート事業助成金交付要綱というのがありますよね。助成対象者っていうのは第2条にあるんですが、（1）が町内に住居または仕事を探す活動、（2）が町内の地域情報を収集する活動へもたぶんお金を出しているというところはそこらへん独特かなというところもあるし、助成金の（3）にもありますけど、1万3,000円、8,000円というのは……（「これ結局旅費……」）そうなんだけど、だってこの旅費に出すところってあまり……（「ねえか」の声あり）俺もずっと探していたけどなかなかないんですよ。関東方面からも来ていただくっていうところ、さっき副委員長が言った過去のデータですけど農業法人なんかにも……。
山岸三男副委員長	実績はあげているんだよね。
鈴木宏通委員長	そのとおりなんですよ。 そのほか、もしありましたらば。はい、吉田委員。
吉田真悦委員	今の部分の関連から、さきに。いただいていた資料の中にも入っているんだけど、おいでいただいた人たちに対する雇用問題が鍵だよという部分をうたっているのね。だから、この移住者の人たちもかみなか農楽舎の関係もんだけど、それ以外の会社員の方というのも当然出てくるわけだわね。だから、そういう雇用問題について、町及びその協議会としてのサポートについても確認しておく必要があるんでないのかな。自分らほうの町でも実際問題点としてそういう部分があるからね。今後も幅広く各団体と連携していく必要があるというふうには書かれてはいるんだけどさ。そここのところ少し中身を。その後どのように広まっていっているかというのもお聞きしていたほうがいいんじゃないかな。 あと、若狭町については23年4月から職員1名をふるさと回帰センターに出向させているわけさね。私も1回回帰センターには行っているけども、ただそのときに若狭町、俺が行ったときからすればおそらく23年だからこのときはもういたっていうことになるんだと思うけども、一応その後もね、なんていうかな、その効果というかさ。だからそういうのと現状にどの程度大きくなっていったのかということ、継続してやっていると思うんで、今でもさ。その回帰センターに、目を付けたっていうと失礼になるけども、着眼点をそこに置いて職員を出向させたと

	いういきさつ、経過とその後の状況についてでもいいしき。あまり強い言葉で言うとうまくないから。
鈴木宏通委員長	わかりました。まず雇用の関係で町または協議会のサポートの状態がどのようになっているかということと、ふるさと回帰センターへの職員の出向による効果、または職員のその後の対応とはどのようになっているかというところを聞きたいと思います。それで、初日って2時間でしただけか。（「はい」の声あり）もちろん次の日もそうだと思うんだけど。たぶん、説明が30分前後は受けると思うんで、私たちの質問への説明等もいただけたらと思うんですが、どこに重心を置いていくかっていうのはやはり今の2点、3点、今3つぐらいあがりましたが、次世代の定住促進協議会という部分がまず1点。そして2点目は交流人口の増加に向けての取り組みというのを今から10年前より始めてどのように推移してどのようないろいろな事業等を行っているかということだと思うんです。あと3点目は吉田委員が今申しました、定住に向けてはまず雇用関係が一番ですので、その部分で町、協議会のそのサポート面、そしてふるさと回帰センターというのをどのように利用して職員を派遣してどのような効果がという部分……を中心に3点。もしよければ、もしそのほかに何かありましたら。（「俺はもう1点ある」の声あり）もう1点、はい。
吉田眞悦委員	東京若狭会というのを、要するにうちのほうで言うと南郷ふるさと会みたいな関係だと思うんだけど、やはりだいぶ東京首都圏で行われるイベント関係で協力をしていただいているというようなこともやっているんで。やはり出身された方というのはふるさと会というのはかなり強いんです。だからこういう人たちの若狭会、これも結局町のほうからお願いしてつくったような関係だと思うんで、それらについてもいきさつとか現状について聞かせてもらえればなど。今後の参考にもなると思うんで。ふるさと会もあるしね。あと、ちょっと今いくらか縮小されているのかな、不動堂中学校の関係もある。おそらく継続はちょっとクエスチョンだけだね。そういう関係もあるんでね。ですから、もっと美里でも出身者の力を借りて新たなまちづくり、町おこしということも当然協力体制の一つになるんじゃないかなという観点もあるんでね。そのところもいいんじゃないかなと思います。
鈴木宏通委員長	休憩します。
	休憩 9時50分 再開 9時53分
鈴木宏通委員長	再開します。今、空き家対策につきましての不動産会社と連携したこういうホームページですかね、ネットを通じてこういう空き家の広告って言ったらいんですか、そういう取り組み等もどのような形で進められているのか。実績等もここにもいろいろ載っていますけども、そういう部分はどのようになっているのか。聞きたいと思います。 まず、うちのほうの町の取り組みはなかなか少し出遅れているところ

	もあるので、聞きたいことはほとんど全部だとは思いますが。本当に説明を受けたりいろいろしてまた違う観点で質問が頭にたぶん湧いてくるんじゃないかというところがいっぱいありますけども。そのほかもしあれば。 はい、千葉委員。
千葉一男委員	1つは私自身がわからないので、回帰支援センターというのはNPO法人っていうふうになっているんですね。まず、宮城県の場合は運営母体はどういう形でやっているか、もしわかったら教えて。（「東京」の声あり）東京。（「あれは県で……」の声あり）県でやっているの。
吉田眞悦委員	ブース借り切って……、まあ今はどうやっているかわからないよ、俺が数年前にちょっと寄ってきたときに、各県の枠が町村単位でブースをもう借り切っているところもあるんだ。
千葉一男委員	じゃあその運営……、要するにその団体の仕組みはNPO法人っていう法人を市町村が構成してやってんのかとかさ。どういう形でやっているのか。あるいは県の主導でやっているのかね。まずここはNPOって書いているんだ。
吉田眞悦委員	たしかね、なんぼだかっていう加入金みたいなものがこうあってそこでどのようにしているか。まあ行くと話を聞けるけどたしかそのようなことなんです。俺の記憶だけどさ。まあ間違っているかもしれないから。
千葉一男委員	いや、組織体によっては、ここは若狭から人を派遣するというのをやってきているようですが、そうすると宮城県の場合は派遣するというその行動を起こすときにどういうチャンネルを使って、県なのかあるいはその組織体に自由に行けるんだろうか、その辺ちょっと恥ずかしいんですけど私よくわからないので聞きたかった。これが1つ。 もう1つは交流人口っていうのを大事に、田舎だから交流人口を増やさないといけないんだけど、その中で民宿の利用が下がっているっていうんだよね。どこかにあったんだ。だからこの民宿が下がるっていうのと今民宿を拡大しようといういろんな動きがありますので、その辺をどのようにして減っているのは。まあ何か考えられることがあるのかどうかと思って読みました。若狭は……リアス式の。
鈴木宏通委員長	ラムサールに登録しているような地域だし。
千葉一男委員	いいんだよね。環境はね。
鈴木宏通委員長	あと福井県だから地層がかなり……。
千葉一男委員	そういうことをちょっと感じたので、交流人口を増やすための1つのツールとして民間の民宿だってあるんだと思うんですね。だからその辺ちょっと何がじゃないけどもさ、考えられるようなことがあったら、改善の仕方、改革の仕方とか今ね、についてちょっと関心を持ちました。以上です。
鈴木宏通委員長	ふるさと回帰センターの運営主体、そこに関わる職員の身分って言ったらいいんですか、こっちから出向している職員もいるだろうし、現地に常駐している人たちがどれくらいいるかという部分。あとは今、こじ

	れている部分での民宿に関して減少傾向があるということで今後そういう観光資源を……若狭の町でどのような対応をしていくかということでしょう。 そのほか、ございましたらば。 では、ちょっと休憩を挟みまして、ざっくばらんにいろいろ言っていた方がいいかなと思っていますので。
	休憩 9時58分 再開 10時13分
鈴木宏通委員長	では、再開いたしまして、次に移って最後に一回まとめをしますので、岐阜の白川の町のほうへの質問項目を再開して始めたいと思います。 白川のほうも結構奥まった地域ではございますが。皆さんお手元に資料等がありますが、人口等はうちの町の半分以下、3分の1ですかね、そういう地域ではございますが、その人口の町でやっている定住促進に関しては先進的なことをかなり行っている町でございまして、説明の部分もたぶん書いてあると思いますが、光ケーブルなんか皆通しているんだね。町全部、各戸ね。その情報共有もそのとおりですし……、資料として出していたのはあと……。町で地域サポートセンターだったかな。移住交流サポートセンターか、が設立をしまして地域おこし協力隊を活用したそういう移住交流の取り組みを行っている町に……。白川町のこの物件情報として町がそのサポートするとともに移住交流センター……先ほどの若狭と同じように物件の紹介をしているんですね、たしか。そして体験住宅があって、この「どさない」というのがあるんですね。 はい、吉田委員
吉田眞悦委員	白川町で私が一番興味をもったというか、聞いてみたいと思ったのが、まず1つは住宅取得支援に関わる部分でよそから入ってきていただく人じゃなくて町民にも対象にしているんだよね。それでそういう新築住宅にしろ、中古住宅にしろだけでも、要するに町民も外に出ていけないでという狙いでやっているとは思うんだけど、そういった支援策の経緯についてこういうことを行うに至った経緯等についてもお聞きかせ願えればなというふうに。 そしてあと戻ってくる人たちへの実家改修補助金というのもあるんだよね。結局は戻ってくることによっての。だからそういうような本町にはないような取り組みもしているということで、まず改修関係についてそういったところを少し詳しく聞いておいた方がいいんじゃないかと思いました。それと浄化槽関係とかそういった関係についてはやはり地理的な要件もあって水資源を守るということもあるんだらうけども、かなり手厚くやっているのかなということもあるんで。そういうことも含めながら聞いてみたほうがいいのかというふうに感じたところです。 あともう1つが、白川町も移住交流サポートセンターというのをきっちと設立した中で動かしてんだよね。これを見ると。そして、専任の空

	き家相談士という人がこの中にいるということで、その専任のお空き家相談士の方の仕事の中身とかどういった、まあ成果まで聞くと少し失礼かもしれないけど、そこのところをもう少し詳しく聞かせてほしいなということと、もう1点サポートセンターの中であなただけのオリジナルツアーということをやっているわけさね。ここではね。だから移住定住で白川町に行ってみたいということを見学ツアーをやっているということなので、ここは当然自然環境もうちのほうの町とは全然違うところもあるんだけど、そういうことの見学ツアーによっての効果的なこともどうなのかなと思ったのでそこのところをもう少しお願いしたいなと思いました。
鈴木宏通委員長	そのほか、何かこれについてぜひという部分がありましたら。
佐野善弘委員	だいぶ林業というかですね、ひのきを活用した取り組み、地域おこし協力隊ということで林業に関する内容もあります。うちのほうとはあれなんですけど、その辺の内容を聞いたらいいんでないかなと。
鈴木宏通委員長	林業が盛んな地域ということもありますしね。水資源を守るところにもかなりいっているのかな、環境整備も。 ちょっと休憩します。
	休憩 午前10時22分 再開 午前10時40分
鈴木宏通委員長	それでは再開をいたします。本日常任委員会の会議の中身である1番の今回行政視察に行きます福井県の若狭町そして岐阜県の白川町の2つの町におきましてまずテーマとしていろいろ掲げております定住化促進の中での取り組みとして若狭町におきましては次世代の定住化促進協議会につきましたの成り立ちにつきました今の経緯等を質問事項にしたい。あとは、交流人口を増やす工夫で取り組んでいる部分につきましたも東京若狭会、あとはその部分で取り組む経緯、視察等のことを聞くと。あとは、雇用関係につきましたも町、協議会のサポートはどのようになっているか。ふるさと回帰センターの出向している効果と職員についてどのような形で出向されているかということについて聞いてくると。あとはその部分でふるさと回帰センターの運営及びその部分でどのような形でしているのかということ、回帰センターについても聞くと。もちろんその中の部分でも町としての雇用関係につきましたの求人に対する求人率、労働人口の推移とまちづくりの視点からどのように対応しているかということもお聞きしたい。ということで若狭町に関しましてこのような点を踏まえて質問状を送りたいと考えます。 白川町に関しましては、住宅取得支援につきましたさまざまな取り組みをしていると。本町でもしておりますが、本町とは違う部分の町民にも対象としている経緯、成り立ち、またはこちらに帰ってくる方々に対しての実家への改修支援につきましたの成り立ち、経緯を。また環境整備保全ということで水質保全の関係もあります、先ほど来下水の話または林業の取り組み等もございました。あとは移住サポートセンターに

	つきましての空き家相談の専任員を置いているという部分の取り組み、または見学ツアー、オリジナルツアーをどのような取り組みでやっているかと。ということにつきまして、まず白川町については聞いてくる。 また、白川町につきましても若狭と同じような形で、同じような視点でまちづくりの視点、または雇用関係の部分、同じような論点を踏まえて、双方同じ質問を考えたいという項目もありますので、皆さんに認識をしていただきまして、あとこの2町に対して渡る質問に対して副委員長そして事務局の高橋さんと後ほど論点整理をして質問を出したいと思っておりますので、皆さんの御了解を得たいと思っておりますがよろしいですか。（「はい」の声あり） では、本日の会議の論点は以上になりますが、あと今事務局より先ほど資料としましてこの地域おこし協力隊についての部分で資料をいただきました。もちろんこの部分に関しては双方の町、主に白川町が取り組んでいる部分なのかなと。その部分に関しても質問項目に入れましてこの方々のどのような経緯で地域おこし協力隊に入ってきているのかというところと3年間という長期にわたってのサポートをしていてこの5番の前も同じような仕事をしている方が引き続きしているのかなと。岡山から来てまたすぐという形になりますので、こういう方々の成り立ちというかね、どういうことでこういう方々を、募集をどのようにかけているかって言ったら変ですけどそういう部分もいろいろ参考にしたいところがありますので、我が町もいろいろ参考になる2町の研修先ではないかなということでございます。 本日はこのくらいにしてよろしいでしょうか。ではあと後日、副委員長が時間を許す限り空けていただきましてこの論点整理をしますので、よろしく願いしたいと思っております。あと本日事務局より何かありますか。
高橋秀彰主事	今回の視察ですがいつもどおりですね、当初宿が視察先の町の宿を使うという関係で、事務局で手配する形を想定していたんですが、いつもどおり旅行業者の斡旋を受けることができそうなので、若干想定していた料金より安くなるかなとは思っています。今後の話になるかとは思いますが、例えば近隣町村とかの視察に行く場合に費用弁償等お金がかかるということがありますが、若干その辺浮かせることができたのかなというところもありますので、詳細な費用についてはでき次第また報告させていただきますと思います。
鈴木宏通委員長	いろいろと忙しいところ本当にありがとうございます。
櫻井功紀委員	業者はいつも頼んでいるところでしょ。（「はい」の声あり）
吉田眞悦委員	頼めるならその方がいいんだ。
鈴木宏通委員長	そのほか、何か皆様よりございませんか。ありませんか。
吉田眞悦委員	研修に直接関係ないんだけど、事務局で両町の議会事務局と連絡とかも当然するんでしょ。（「はい」の声あり）それで議会の事務局体制のことさ、若狭は議員さんたち14人に対して職員は専任職員ゼロなのさ。

	（「専任ゼロなんだ」「兼任は2人いるんだけども」の声あり）だからその取り組みがどうなのかということを含わせて白川町とさ、9人の議員に対して職員6人なのさ。ちょっとだいぶ興味を持ったから。内々でいいから。別に説明はいらないから、聞いててください。質問事項には入れることないよ。現状がどうでどういうわけかこういうふうになっているのかということだけでいいから。
高橋秀彰主事	それと若狭町については当日議長さん公務のため対応しかねるという話をいただいていたので、あらかじめ御承知いただきたいと思います。
鈴木宏通委員長	そこら辺も含めて、私も白川がね、質疑方法が一問一答方式、回数撤廃。時間制限撤廃って。（「無制限」の声あり）どういうふうになっているんだかと思って。
吉田眞悦委員	質問無制限ってことださ。
千葉一男委員	昔の村と同じだ。
大橋昭太郎議長	難しいこと言わないんだっちゃんね。
吉田眞悦委員	ああ、ねえのか。
大橋昭太郎議長	ねえのさ。
吉田眞悦委員	行けばね、いろいろ余談で聞くにいいかもしれないしね。
山岸三男副委員長	あまりなさすぎるから無制限にしてる。何か聞けよって。
千葉一男委員	福島町だってそういうふうな。すごくルーズだっていうかね。
大橋昭太郎議長	ああ、福島町もそうだよねえ。
千葉一男委員	うちだったら議会に出るしかなかったと思うような程度なんですよ。福島町は。そうだったなと思って帰ってきた。
吉田眞悦委員	いや、常識を持った議員さんたちで……。
千葉一男委員	そうそう。それも事実。信頼されている議員さんだから。
鈴木宏通委員長	議会に関する中身についても事務局ちょっと入れていただければ。事務局体制とかそういうことを。内々に。 そのほかございませんか。（「ありません」の声あり） では終わります、副委員長より御挨拶を申し上げて終わりにしたいと思います。
山岸三男副委員長	大変御苦勞さまでした。7月の18、19でしたっけか。2泊3日での所管事務調査でございます。先進地視察でございますので、やっぱりこういう資料を見るとよく気づくのは我が町と比べると大変人口の少ない予算配分も少ない町であればこそこういう定住対策っていうのを真剣に取り組んでいるんだなっていう印象があるんですけど、その辺を私たちは学んできたい。そんなふうに思いますので、皆さんもしっかりと勉強して質問をいっぱいしていただきたいと思います。きょうは大変御苦勞さまでした。
1：24：54	閉会

会議の経過を記載して相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年6月19日

総務、産業、建設常任委員会

委員長